



関西大学ミューズキャンパスでのジョイント・スチューデント・セミナーの様子

【この活動の概要】

主な活動	海外大学との学生交流
関係機関	<small>めいでん</small> 銘傳大學（台湾）
実施時期	2017年7月7日（2015年より継続中）
参加者数	関西大学（23名）、 <small>めいでん</small> 銘傳大學（9名）

【先生に直接聞いてみました】

海外の大学との合同ゼミを通して、“うまくコミュニケーションできなかった”という経験をした学生たちは、「次回同じようなチャンスがあったら絶対話せるようにしたい」とみんな口を揃えて言ってくれます。

—— この取り組みを始められた経緯を教えてください。

城下 2008年の夏、私が学生の頃に2ヶ月間ほど台湾のNCDR（國家災害防救科技中心）というところでインターンシップのような研修を受けておりました。そのNCDRが入っているビルが、台湾の国家的な危機管理の中心になるビルでして、何か大規模な災害が発生する可能性がある時、もしくはそのような災害が発生した場合に、総統が来て国の災害対策本部が立つような建物でした。NCDR自体は9階にあ

るのですが、その下にはNFA（内政部消防署）という、日本の総務省消防庁に当たるような機関も入っていました。そこで同じビルの中で仕事をしているご縁でNFAの方と知り合いになりまして、当時NFAとの共同プロジェクトをやってらっしゃった^{めいでん}銘傳大学の馬先生とも知り合いました。ですので、かれこれ10年近くのお付き合いになります。合同ゼミは、私の方から「一緒にやりましょう」と呼びかけをして、2015年に第1回の合同ゼミを^{めいでん}銘傳大学で開催しました。



英語でのプレゼンテーションの様子

—— 具体的にどのような内容ですか？

城下 基本的には、学生による英語による研究成果発表とお互いの大学訪問ですね。我々が台湾に行く場合は、向こうの大学の紹介を受け、普段学んでいることをゼミの形で発表し合います。将来的には防災センターの見学などフィールドスタディ等もできればいいのかもしれないですね。

—— どのような成果があったのでしょうか？

城下 学生たちの英語学習のモチベーションが上がるのが一番大きいと思いますね。日本というのは翻訳文化じゃないですか。だから、海外のものを自分で訳したりしなくても、すぐ翻訳された資料を読むことができますし、中学校からずっと英語教育を受けて来ても、ほとんど英語を使うチャンスもなく、また使わなくても一生楽しく過ごしていけるというのが実態かと思います。そのような中、海外の大学との合同ゼミを通して、「やっぱり話せなかった」「うまくコミュニケーションできなかった」という経験をした学生たちは、「次回同じようなチャンスがあったら絶対話せるようにしたい」とみんな口を揃えて言ってくれます。そういう点がまずはずごく良いのかなと思いますね。

もう一つは、防災学は日本ではマイノリティかもしれませんが、世界に目を向ければ、世界の色々な大学で同じように防災に関心を持ち学んでいる仲間がいるんだということを知ることができるのも、とても大事なのかなと思います。

—— 学生たちが高い英語力を持っている印象を受けました。

城下 私のゼミの学生募集の際には「英語を使う機会が高いので、国際的な交流に興味がある学生さんはぜひ積極的に応募してくださいね。」と言っています。そのため、ゼミの学生たちは今回のような海外の大学との合同ゼミに面食らっているということではなくて、むしろ「やっぱりこういう機会が来たか。」と思ってくれているのではないかな、と考えています。学生たちは英語は苦手かもしれないですけど、嫌いではない筈ですね。





アイス・ブレイキング・セッションの様子

—— その他にこの合同ゼミで学生に学んで欲しいことはありますか？

城下 外国からお客さんが来るということで、学生たちはいろいろ協力して準備してくれています。そういうことも大事な学びの一つなのかなと思います。準備をして、お客さんをお迎えして、気持ちよく帰ってもらうということですね。そして逆に、自分たちが外国の大学に行った時に歓待を受けるということ。お互いに持ちつ持たれつなんだ、というようなことを経験するということですね。そういう点では最近の学生ですから、すぐにLINEなどで海外の学生とも連絡先を交換したりしているので非常にいいなと思っています。英語でコミュニケーションを取るとは言っても、大勢の前で英語で質問するということはなかなか難しいと思いますが、そうやって個別にコミュニケーションをとって海外に友人を作っていくことが、何らかの形で学生たちの将来に繋がっていくといいなと思っています。

—— 苦労された点はあるですか？

城下 特にはないですかね。台湾なので学生が先方に行くときも心配することは少ないですし、交通費についても最近はLCCを使えば比較的安く済みますので、台湾くらいまでの距離でしたらあまり困らないかなと思っています。

強いて一つ挙げるとするならば、台湾側の都合と日本側の都合を調整することですね。この時期（7月）ですと、台湾の大学では卒業論文や修士論文も終わりかけているので、たくさんコンテンツを持って来るのですが、日本の大学は学期が始まったばかりなので、どうしてもゼミでの発表内容が浅くなってしまいます。先輩の研究内容の紹介が多くなって、自分が研究した内容を発表する割合が少なくなってしまいます。逆に3月に開催しますと我々がとても有利になります。9月始まりの国と、4月始まりの国の都合の調整ですね。

—— 今後の展開を教えてください。

城下 大きな話としてありますのは、^{めいでん}銘傳大學との学部間協定の締結です。すでに協定案も先方から頂いておりますので、近い将来話がまとまるのではないかなと思っています。先方の都合が悪くなり実現はしませんでした^{めいでん}が、銘傳大學の学部長が社会安全学部の学部長に会いに来る予定もありました。

また、学生たちから、次は自分たちが^{めいでん}銘傳大學に行ってみたいという声も上がっておりますので、次の合同ゼミを台湾で実施することになるかなと思っています。さきほどの馬先生にお話ししましたら是非来てください、ということだったので、この交流がこれからも続いて行くと思いますね。



【学生の声を聞かせてもらいました】



社会安全学部3年次生 足立祐太さん

— 今、学んでいることを教えてください。

足立 今は防災教育というものを学んでいます、そのためにあえて医療の文献を読んでいます。その中で、医療と防災教育の共通点を見出して、さらに防災教育の学びを深める、という学習をしています。

— 今回のプレゼンテーションで苦労したことはありますか？

足立 英語でプレゼンテーションをすること自体が少ないので、それ自体が結構きつかったです。英語でプレゼンをするより、英語のプレゼンを聴くことのほうが個人的には難しいなと感じました。ゼミの先輩方との英語力の差を痛感しましたね。

— この合同ゼミの経験が将来どのように役立つと思いますか？

足立 やっぱり英語でコミュニケーションを取るっていうこと自体が大きいと思います。いい経験になったし、もっと経験をつまなきやだめだな、と思いました。質疑応答をこなしていくことは社会に出たら必要になってくると思っていますが、日本語でも難しいのに英語でやるとこんなに難しいのってことにびっくりしました。



社会安全学部4年次生 青木麻耶さん

— 今、学んでいることを教えてください。

青木 今は『まなびを学ぶ』という文献を読んで学習を進めています。文献の内容は、防災教育というのは、専門家の方から市民の方へ伝えるだけではなくて学びを一緒にするのが大事だ、というものです。そのような勉強をする中で、さきほどの合同ゼミで発表しましたように、津波避難訓練を小学生と一緒にやるというような実践的な学習をこれからやっていく予定です。

— 今回のプレゼンテーションで苦労したことはありますか？

青木 英語が難しく、発音も伝わるか不安でした。日本でも防災教育を伝えることは難しいですし、学部の中でも科学技術だけでなく、学びの場が大事だと言うことはなかなかわかってもらえないのですが、それを英語で伝えることはさらに難しく大変でした。

— この合同ゼミの経験が将来どのように役立つと思いますか？

青木 海外の方と英語でコミュニケーションを取る機会は貴重だと思いますので、そのような機会を持てたことが良かったと思います。もっと勉強しないといけないなと英語を学ぶモチベーションになります。





社会安全学部 4 年次生 野田修一郎さん

—— 今、学んでいることを教えてください。

野田 僕自身は以前から教師を目指していて、防災教育に関心がありました。中でも、僕の先輩がやっていた FM ラジオを使った防災教育にすごく興味を持ちました。教師を目指していたので、学びの場というものに興味があったんです。そのため、今日のプレゼンテーションで発表したような、FM ラジオが防災の学びの場になって、みんなで防災の意識を共有できたらいいなというところから、FM ラジオを中心に防災を学んでいます。特に、学びの場作りっていうところにすごく興味をもって勉強しています。

—— 今回のプレゼンテーションで苦労したことはありますか？

野田 防災学ってまだ一般的じゃないと思っています。それなのに、防災学の中で“ミニ FM”という更に馴染みのないテーマを扱うわけです。僕の先輩も学んだことを形にしていくのに苦労されていたのを見て、難しい取組みなんだなって思っていました。ただでさえ難しい内容を英語にしてわかりやすく伝えることが、すごく難しかったです。

—— この合同ゼミの経験が将来どのように役立つと思いますか？

野田 物怖じせずに海外の方と話せるようになったと思います。



研究者氏名	城下 英行
所属学部・学科等	社会安全学部 安全マネジメント学科
職名（資格）	准教授
専門分野	防災教育、自然災害科学
研究者情報	http://gakujo.kansai-u.ac.jp/profile/ja/xXada515d41c3dem5dPce900893.html

発行：関西大学国際部 <http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/>

